

令和6年度 滋賀県言語聴覚士会総会

日時：令和5年5月18日(土)19:30～

場所：zoom

令和5年度事業報告

執行部報告 ー全体報告ー

主な活動内容

滋賀県POS連絡協議会	地域リハビリテーション活動支援事業
失語症意思疎通支援事業	県民参画事業（県リハセン共催）
災害対策研修会（滋賀JRAT）	被災地支援活動
学術行事（先輩に聞いてみよう、症例検討会、生涯学習基礎講座）	
ホームページ刷新	定期理事会
能登半島地震被災地支援活動	ホームページ更新

- 令和5年度は、総会、理事会、学術行事はzoomを利用したオンライン研修を実施いたしました。
- 失語症意思疎通支援事業は現地開催で実施しました。

会長活動報告

言語聴覚士会理事会の招集/開催 *

滋賀県リハビリテーション協議会 *

滋賀県リハビリ3士会会長会議 *

滋賀県POS連絡協議会(家守) *

地域リハビリテーション人材育成活用検討会議(県リハ)

全国都道府県士会長会議 *

近畿府県士会交流会および近畿府県士会合同会議

滋賀県主催 在宅医療セミナー検討会(家守)

第80回国民体育大会・第25回全国障害者スポーツ大会実行委員会

能登半島地震 滋賀JRAT対策会議 *

地域リハビリテーション活動支援事業

失語症意思疎通支援者養成事業開催 *

* は複数回出席

会計報告／会計監査

	摘要	令和5年度 予算案	令和5年度 決算
収入の部			
繰越金		¥1,320,257	¥1,320,257
会費	¥4,000 × 100名	¥400,000	¥335,815
活動支援金		¥150,000	¥129,530
基礎講座受 講料	県外・非会員参加 者参加費¥2,000	¥50,000	¥164,000
利子		¥10	¥12
合計		¥1,920,267	¥1,949,614

	摘要	令和5年度 予算案	令和5年度 決算
支出の部			
事務関連費	事務物品費 郵送代 ZOOM契約料など	¥40,000	¥32,330
渉外費	後援費用など	¥10,000	¥7,400
教育・研究費	会場使用料 講師代、資料代、茶菓子代	¥17,000	¥113,530
啓発活動費	イベント雑費	¥20,000	¥10,214
士会活動・ 旅費交通費	近畿交流会・会長会議費・ JIMTEF研修会費用・防災 訓練出展費・訪問リハ研修 費・失語症支援事業	¥250,000	¥227,520
士会運営費	理事会費、雑務・執筆代	¥112,000	¥83,000
選挙費		¥0	¥0
積立金（災害・ JRAT派遣用）		¥0	¥0
積立金 （法人化準備金）	法人化計画延期のため	¥0	¥0
合計		¥449,000	¥473,994

事務局報告

1) 令和5年度定期総会をzoomにて開催

令和5年度事業計画ならびに収支予算が採択された。

2) 「日本言語聴覚士協会都道府県士会」関連行事に関する

協会との諸連絡、その他の事務処理を行った。

3) 会員への諸連絡その他の事務処理を行った。

4) 他団体との諸連絡その他の事務処理を行った。

財務部

- 1) 年会費の出納/県士会活動費の出納
- 2) 県士会活動費の出納
- 3) 会計報告(上記報告済み)

* 失語症事業は県からの基金のため、士会の会計から除外。
会計は滋賀県理学療法士会に委託。

学術部 *全てzoom開催

- 第1回 7月21日（金）基礎講座『3. 職種間連携』：佐敷俊成先生（滋賀県立総合病院）
- 第2回 8月18日（金）先輩に聞いてみよう：『解剖・嚥下プロセスから評価につなげる』
講師：岩本徹先生（近江温泉病院）
- 第3回 9月22日（金）症例検討会2例
- 第4回 10月20日（金）先輩に聞いてみよう『小児の摂食・嚥下リハビリテーション』
講師：坂本隆先生（滋賀県立小児保健医療センター療育部）
- 第5回 11月16日（木）先輩に聞いてみよう『標準失語症検査の評価と訓練への応用』
講師：種村純先生（びわこリハビリテーション専門職大学）
- 第6回 12月15日（金）先輩に聞いてみよう『高次脳機能障害者の自動車運転適性評価』
講師：田邊信彦先生（市立長浜病院）
- 第7回 1月19日（金）基礎講座『4. 言語聴覚療法の動向』：岩本徹先生（近江温泉病院）
- 第8回 2月 2日（金）先輩に聞いてみよう『病院スタッフに伝える介護保険サービスについて』
講師：伊井純平先生（わっと勉強会：フリーランス）

広報部

1. 県士会ホームページの運営・管理
2. 広報活動
 - リレーメッセージの企画・編集・掲載

保険部

- 1) 滋賀県POS連絡協議会・POSコア会議 参加、県基金の運用・会計
- 2) 滋賀県POS人材育成事業における事例研修会の開催・運営
- 3) 滋賀県POS人材育成事業におけるアドバンス研修会の開催・運営

リスク管理部

- 1) 災害時リハ対策窓口担当(滋賀県JRATと連携)
- 2) 滋賀JRAT会議出席、研修会開催
- 3) 能登半島地震 滋賀JRAT対策会議 * 複数回
- 4) 能登半島地震 JRAT東京本部対策会議 * 複数回
- 5) 能登半島地震 滋賀JRAT避難所支援派遣活動
(2024年1月14日～19日)

事業部

- 1) 滋賀県失語症者向け意思疎通支援者養成講座(全10回)の
開催・運営・会計
- 2) 失語症における県民講座の開催・運営・会計
(2023年11月18日平和堂坂本店)
- 3) 失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修会への会員派
(2023年10月21日～22日 zoom)
- 4) 県立リハビリテーションセンターおよびPOS各士会との県民参画
事業の開催・運営(2024年1月13日 草津イオンモール内)
- 5) 滋賀県多職種連携学会の参加(2023年12月3日 web開催)
- 6) 滋賀県在宅医療セミナーの参加(2023年11月23日)

失語症意思疎通支援事業

- 滋賀県からの委託金で実施
- 税金処理等があるため、会計は滋賀県理学療法士会へ委託
- 委託金：1,778,000円
 - 意思疎通支援者養成事業：1,431,820円
 - 意思疎通支援者派遣事業：288,620円
 - 意思疎通支援者指導者養成事業：0円（zoom開催のため）
 - 失語症県民啓発事業：57,560円

* 決算は県へ報告書提出済み

令和6年度理事体制

士会の役割

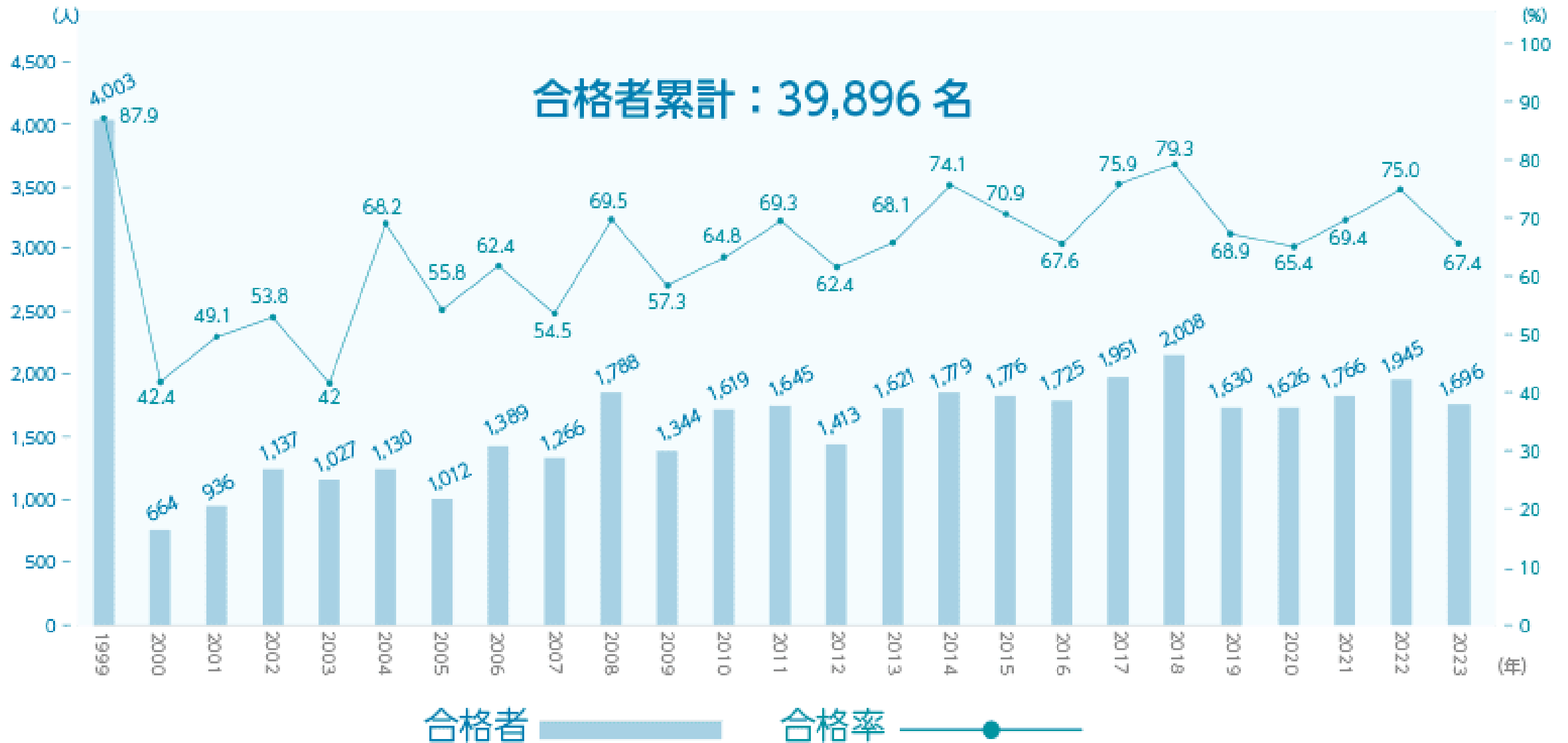
- STとしての職能・職域を維持するため、職業を守るための組織
- STの収入：診療報酬、介護報酬、障害サービス利用料等
- 報酬の決定：厚労省
 - どのように決定されるか？
 - ×勝手に決まる
 - △何も要望を出さなければ報酬は切り下げられる
 - ◎団体が要望を出す→議員を動かす政治力が必要
 - 要望：×個人、○組織

→そのためには協会と士会の連携が必須！！

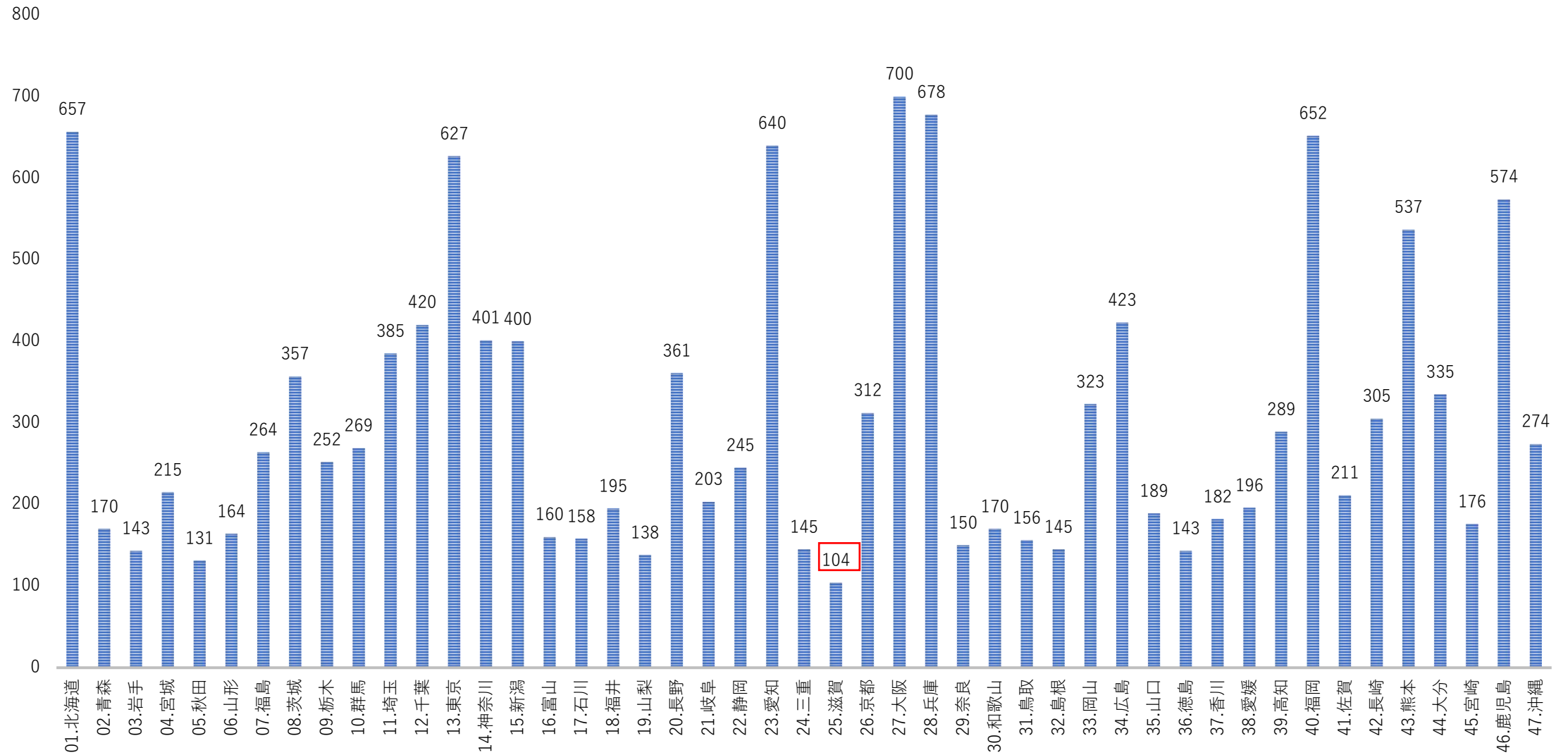
具体的には

- リハビリテーションを考える議員連盟：158名
 - 会長：衆議院議員 鈴木俊一財務大臣
 - 事務局次長：田中まさし参議院議員（PT）
 - PT/OT/ST協会会長が出席
- 要望書
 - ①全世代型社会保障における地域包括ケアシステムの推進に向けたリハビリテーションの充実・強化を図るため、療法士の処遇・労働環境の整備、急性期リハビリテーションにおける人員配置や訪問リハビリテーションの提供体制の強化
 - ②地域リハビリテーションの強化
 - ③地域包括支援センター、児童発達支援センター等の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の配置の推進および予算措置を図ること
 - ④卒後研修を修了する者など質の高い理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に対する処遇や労働環境を改善すること（専門・認定・登録療法士制度の活用など）

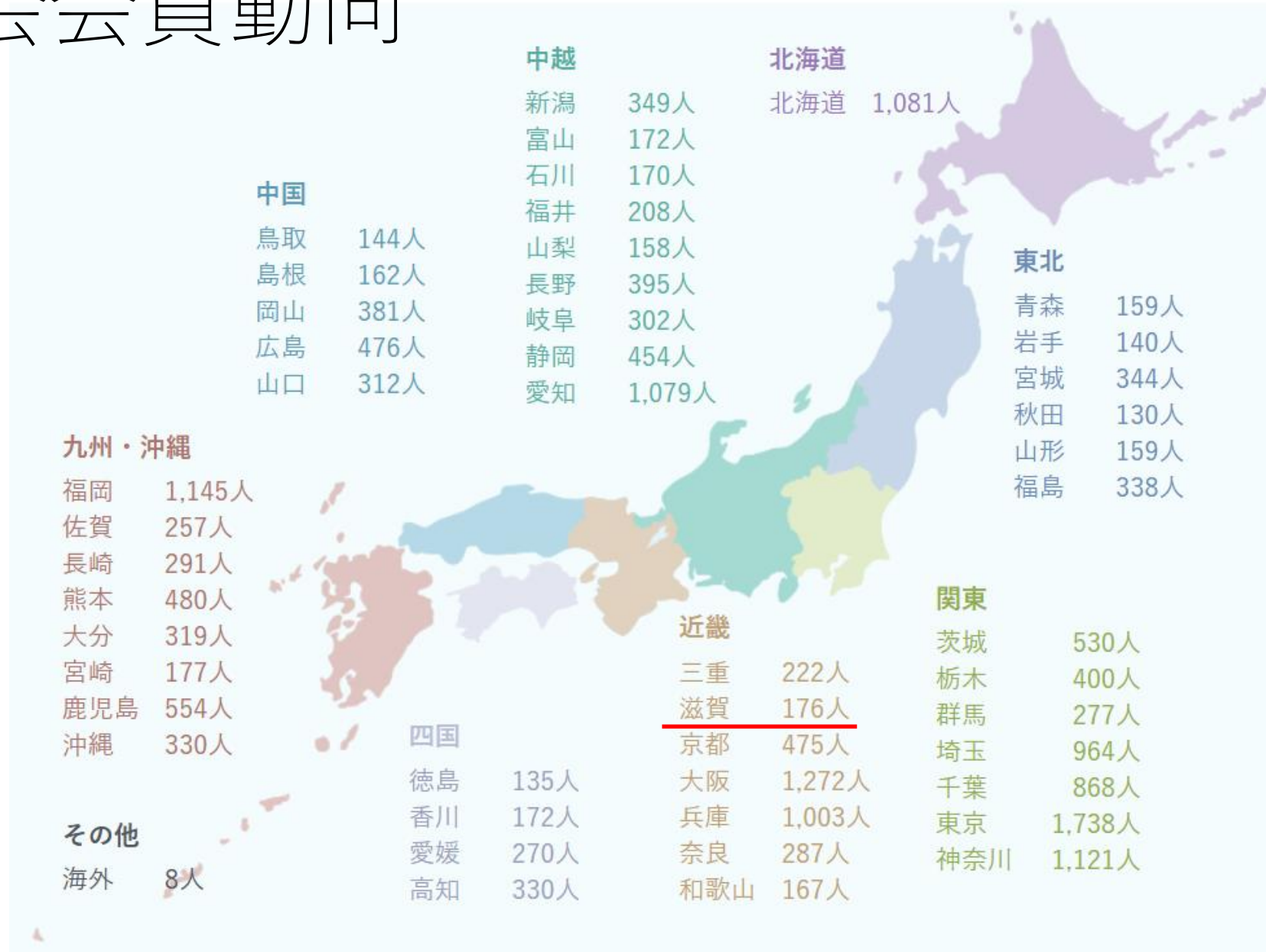
言語聴覚士国家試験合格者動向



2023年度 都道府県士会会員数



協会会員動向



滋賀県内の言語聴覚士会員の状況 2024年4月時点

湖西圏域：5名

大津圏域：19名

湖南圏域：26名

その他：8名



湖北圏域：12名

湖東圏域：7名

東近江圏域：16名

甲賀圏域：7名

合計：100名

今年度以降の士会の主な業務と事業

主な業務

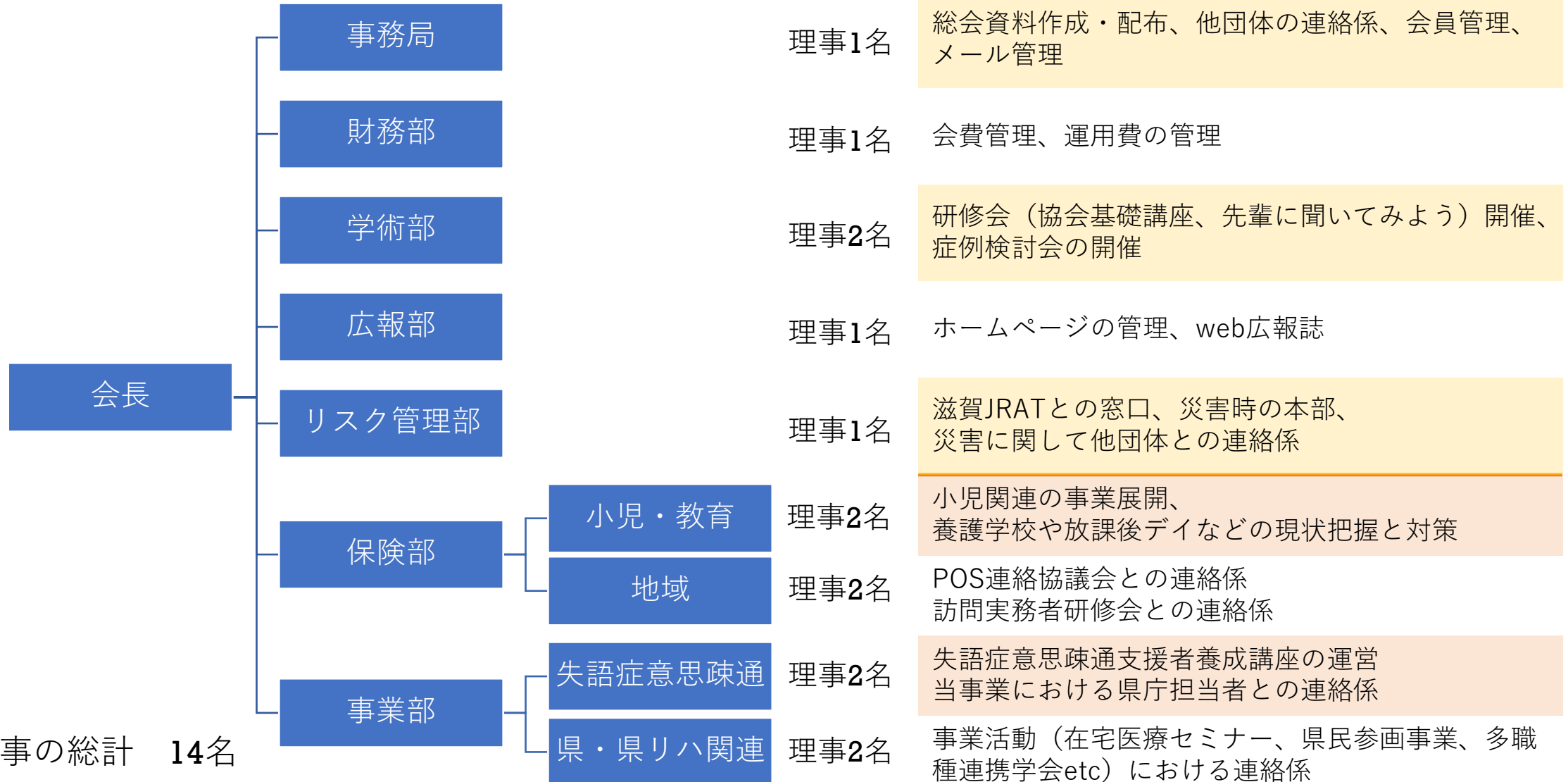
- 事務局
- 財務
- 学術
- 広報
- リスク管理・災害リハ
- 保険部門
- 小児

主な事業

- POS連絡協議会(士会＋各圏域)
- 失語症意思疎通事業(協会＋県)
- 在宅医療セミナー(県)
- 県民参画事業(県リハセン)
- 多職種連携学会(県リハセン)
- 滋賀JRAT(県、POS士会、医師会)
- その他(多職種で栄養を考える会 etc)

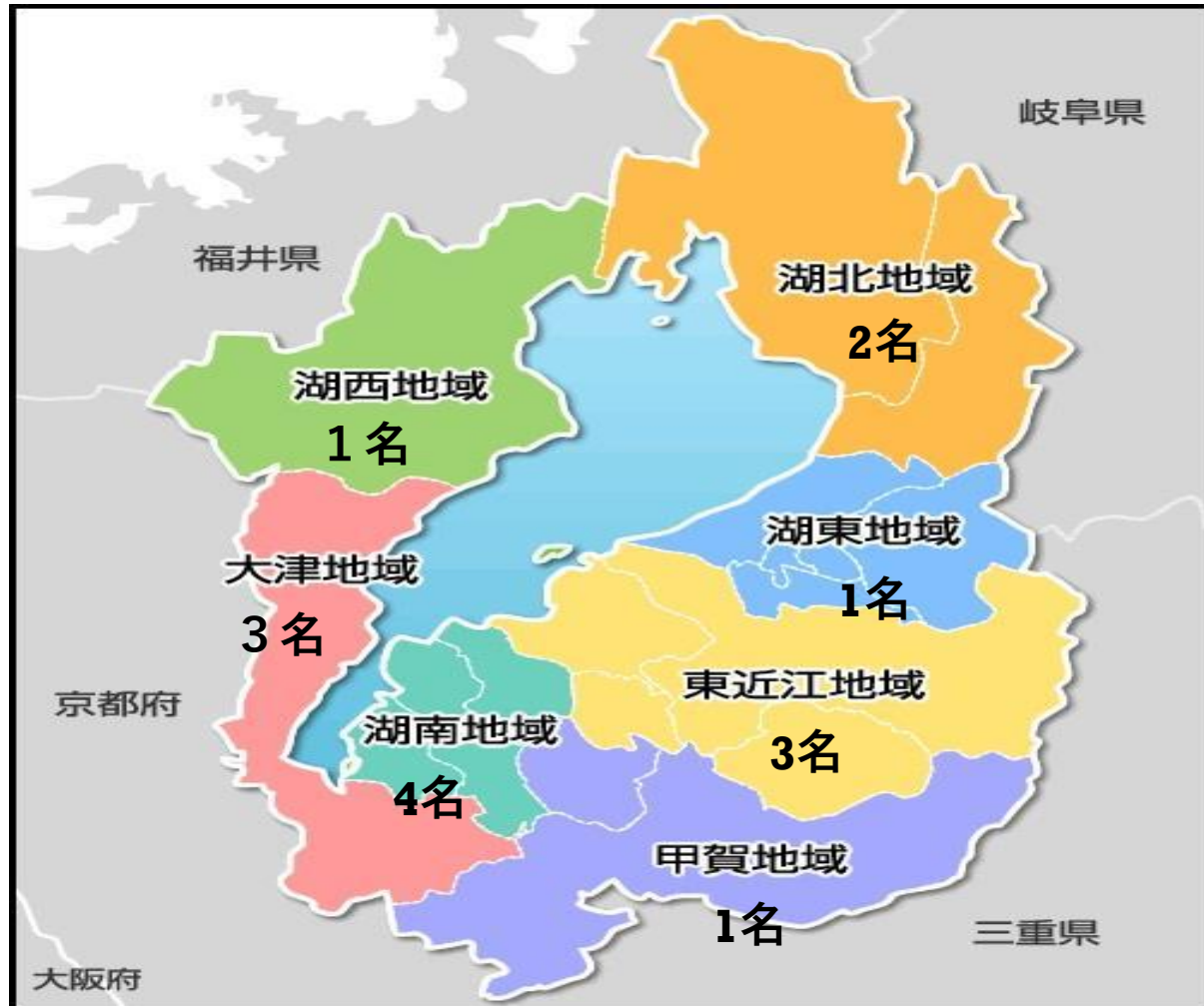
組織図

主な業務内容



配置理事の総計 **14名**

各圏域への理事の配置



圏域別の会員数 R6.4月現在

2次医療圏域	会員数	理事数
大津圏域	19名	2名
湖南圏域	26名	4名
甲賀圏域	7名	1名
東近江圏域	16名	3名
湖東圏域	7名	1名
湖北圏域	12名	2名
湖西圏域	5名	1名

理事公募選挙

- 2024年3月1日～14日まで理事を公募
- 理事15名の定員のうち、14名の立候補がありましたので、滋賀県言語聴覚士会理事選挙規定に基づき、立候補者全員を理事仮当選としました。
- ここで、新理事体制における皆様の上承の下、今年度の運営を行なっていききたいと存じますので、決議をお願い致します。

役職	氏名	圏域	所属	担当
会長(継) リスク管理部長(継)	佐敷俊成	湖南	滋賀県立総合病院	滋賀JRAT 滋賀県POS連絡協議会
副会長(継) 事務局長(継)	甲斐始	東近江	ヴォーリス記念病院	失語症意思疎通支援事業
副会長(継) 保険部長(継)	家守秀知	湖西	高島市民病院	滋賀県POS連絡協議会 失語症意思疎通支援事業 訪問実務者研修
財務部長(継)	阪下浩平	東近江	近江温泉病院	財務全般
学術部長(継)	田邊信彦	湖北	市立長浜病院	協会基礎講座 症例検討会 etc
広報部長(継)	高山圭	大津	京都リハビリテーション病院	県・県リハ関連事業
理事(継)	平川圭子	湖南	滋賀県立総合病院	滋賀県POS連絡協議会
理事(継)	伊井純平	大津	フリー	滋賀県POS連絡協議会 失語症意思疎通支援事業
理事(継)	相宗菜摘	湖南	滋賀県立小児保健医療センター	小児分野事業
理事(継)	畑孝司	甲賀	甲西リハビリ病院	災害リハビリ
理事(継)	塩谷祐子	湖南	(株)リニエル草津営業所	滋賀県POS連絡協議会 県・県リハ事業、地域リハ関連
理事(継)	長谷川味香	湖北	長浜赤十字病院	協会基礎講座 症例検討会 etc
理事(継)	小野奈津子	湖東	彦根中央病院	滋賀県POS連絡協議会
理事(新)	岩本徹	東近江	びわこリハビリテーション専門職大学	失語症意思疎通支援事業 学術行事、県・県リハ関係

令和6年度事業計画・予算案

執行部提案一全体方針一

令和6年度総会開催	県士会組織の整備・調整
日本言語聴覚士協会・近畿府県士会との相互活動協力	
会員の研鑽の場の充実（研修会）	啓発活動（一般向け）
大規模災害に備えた平時の活動	関連他団体との相互協力
失語症意思疎通支援者養成事業、派遣事業	
臨床上の医療安全や感染予防、災害リハの啓発	

令和6年度予算案

	摘要	令和5年度 決算	令和6年度 予算案
収入の部			
繰越金		¥1,320,257	¥1,475,620
会費	¥4,000 × 100名	¥335,815	¥400,000
活動支援金		¥129,530	¥100,000
基礎講座受 講料	県外・非会員参加 者参加費¥2,000	¥164,000	¥50,000
利子		¥12	¥10
合計		¥1,949,614	¥2,025,630

	摘要	令和5年度 決算	令和6年度 予算案
支出の部			
事務関連費	事務物品費 郵送代 ZOOM契約料など	¥32,330	¥90,000
渉外費	後援費用など	¥7,400	¥10,000
教育・研究費	会場使用料 講師代、資料代、茶菓子代	¥113,530	¥100,000
啓発活動費	イベント雑費	¥10,214	¥30,000
士会活動・ 旅費交通費	近畿交流会・会長会議費・ JIMTEF研修会費用・防災 訓練出展費・訪問リハ研修 費・失語症支援事業	¥227,520	¥250,000
士会運営費	理事会費、雑務・執筆代	¥83,000	¥112,000
選挙費		¥0	¥0
積立金（災害・ JRAT派遣用）		¥0	¥20,000
合計		¥473,994	¥612,000

事務局

- 1) 令和6年度定期総会開催運営
- 2) 他団体への諸連絡その他の事務処理
- 3) 会員への諸連絡その他の事務処理
(入会・退会・登録情報の管理等)

財務部

- 1) 年会費の出納
- 2) 県士会活動費の出納
- 3) 会計報告

* 失語症事業は県からの基金のため、士会の会計から除外。
会計は滋賀県理学療法士会に委託。

学術部

1) Web開催での研修会

基礎講座

7月『5. 職能団体の役割と言語聴覚士の責務(旧:協会の役割と機構)』(佐敷先生)

12月『2. 臨床実践(基礎)(旧:臨床業務のあり方、進め方)』(岩本先生)

先輩に聞いてみよう

8月 嚙下障害分(家守先生)

10月、11月 高次脳機能障害分野(講師調整中)、小児分野(講師調整中)

2) 症例検討会(日程調整中・症例募集中)

9月 成人分野

1月 小児分野

広報部

- 1) 県士会ホームページの運営・管理
- 2) 広報活動: リレーメッセージ、県士会活動の発信
- 3) 県士会ロゴの作成

保険部

- 1) 滋賀県POS連絡協議会・POSコア会議 参加、県基金の運用・会計
- 2) 全国訪問リハ・地域リーダー会議 参加
- 3) 滋賀県訪問リハビリ振興委員会運営会議・滋賀県訪問リハビリ実務者研修会開催および運営
- 4) 地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業における基礎研修・導入研修の開催および運営

リスク管理部

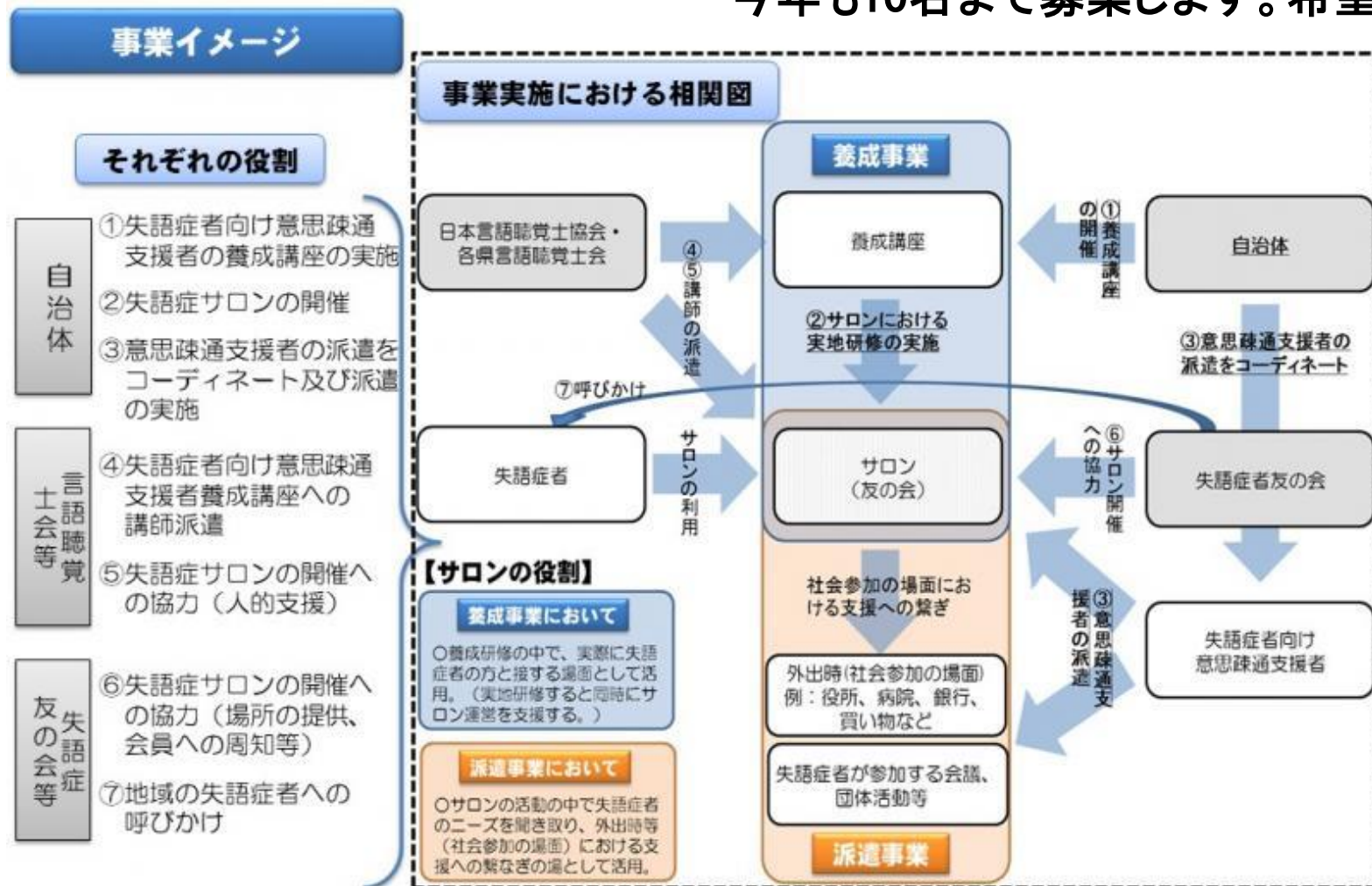
- 1) リスク管理における意識調査アンケートを実施、報告
- 2) 災害時リハ対策窓口担当(滋賀県JRATと連携)
- 3) 滋賀県総合防災訓練への参加
- 4) JRAT近畿会議への出席
- 5) JIMTEF災害医療研修受講:1名(予定)
- 6) 各圏域での県士会災害担当窓口の依頼の継続

事業部

- 1) 滋賀県失語症者向け意思疎通支援者養成講座の運営・開催・会計
- 2) 滋賀県失語症者向け意思疎通支援者派遣事業の運営・派遣調整・会計
- 3) 失語症における県民講座の運営・開催
- 4) 失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修への会員派遣
- 5) 県立リハビリテーションセンターおよびPOS士会との県民参画事業の運営・開催
- 6) 滋賀県在宅医療セミナーの参加および運営会議の参加
- 7) 滋賀県多職種連携学会の参加および運営会議の参加

失語症者向け意思疎通支援事業

今年も10名まで募集します。希望者は事務局まで！



県及び市町村と連携して、失語症者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるように、失語症者の外出に同行したり、交通機関の利用を援助したり、当事者会（失語症友の会など）でのコミュニケーションの援助などを行うことのできる、失語症者向け意思疎通支援者の養成を行います。

厚生労働省より委託され、協会が主催している研修会に年1～2名参加してもらい、養成講座の講師を育成しています。

協会から：士会・協会連携体制構築

- 士会・協会の連携・情報の一致化について
- 今年度、協会からアナウンス予定。

- 会員情報：協会が一元管理する。
- 会費納入：協会が協会費と同時に士会費を徴収する。
 - * 士会費の変更は、士会総会での承認が必要
- 加入：今後、士会・協会の同時加入が必須となる。窓口は協会。

- 2026年度(R8)から開始、2030年度(R12)完了目標

資料4

日 程 表（推進チームの結成等）

2023.10.31作成

	連携体制構築推進に向けた活動	実施時期等
2023年11月	連携体制構築の必要性に関する説明資料作成	原案を秋期士会会長会議に提出
2023年11月	連携体制の構築を進めることの承認を士会会長会議で得、 連携体制構築推進チーム（推進チーム）を設置	（検討会を改め、連携体制構築推進チームに名称変更？）
2023年11月	連携体制構築推進チーム（推進チーム）設置についての理事会承認	協会については、11月12日（日）の理事会
毎年開催	士会会長会議（2回/年）継続	現状のまま
2023年度中	連携体制構築 担当者会議発足 ⇒士会が担当者を選出	協会は2023年度中に担当者名簿作成
2023年度中	必要性に関する説明資料の完成 ⇒担当は誰か？ 推進チームが妥当か？	完成は2023年度中 ⇒担当は11/11に決定する
2024年度開始	連携体制構築 担当者会議開催（随時開催）	2024年度～
2024年度初め	連携体制構築の必要性を大々的に会員へ広報（協会予算立て） （文章だけでなく、画像やビデオを作成して様々な場面で活用）	HP、学会・研修会等の機会を利用して広報を実施
2024年度中	会員対象のアンケート調査実施又はパブコメ収集	実施の必要性を含め検討

	会員情報一元化に関わる確認項目	検討及び決定方法
2024年度	新人が士会会費を数か月遅らせることはできるかを検討	<ul style="list-style-type: none"> ・連携体制構築推進チームがたたき台の案を作成 ・担当者会議で検討をして各項目の案を作成 ・士会会長会議に報告し、承認を得る
2024年度	両会入会義務に関する規程等の改定準備	
2024年度	情報の一元化に関する規程等の改定準備 （会費徴収、入会申請、会員情報変更手順等）	
2024年度	一元管理する会員情報の項目を決定	
2024年度	士会が随時参照する会員情報項目を決定	
2024年度	入会申請時に士会が必要とする会員情報を決定	
2025年度	会員情報管理システムを構築	
2026年度	会員情報一元化の開始年度（対応が早い士会から開始）予定	
2030年度	会員管理一元化の実施完了の予定年度	

協会から：臨床実習の変更

- R8年度から、PT/OTと同様にクリニカル・クラークシップ（参加型臨床実習）が開始となる予定。
- 現行：臨床経験5年以上
- 変更：臨床経験5年以上＋臨床実習指導者講習会受講者
- 開始時期：R8年度の評価実習、臨床実習から開始予定
→R6年度～協会が講習会を実施予定
その後は養成校が研修会を開催予定？

県内養成校

- びわこリハビリテーション専門職大学
リハビリテーション学部 言語聴覚療法学科が開学

The screenshot shows the homepage of the Biwako Professional University of Rehabilitation. The main banner features a student in a white lab coat and red bow tie, looking at a tablet. The text on the banner reads: **言語聴覚療法学科** (Speech and Hearing Therapy Department), **定員20名** (20 seats), and **[学位] 言語聴覚療法士(専門職)** (Degree: Speech and Hearing Therapist (Specialized)). The navigation menu includes links for 'お問い合わせ' (Contact), '交通アクセス' (Access), and a search bar. Below the banner, there is a breadcrumb trail: **学科紹介 > 作業療法学科** (Department Introduction > Occupational Therapy Department). The main text below the banner says: **言語聴覚士をになって人々の伝え合う喜びを再構築する** (Reconstructing the joy of communication for people by becoming a speech and hearing therapist). A blue box on the right side of the page contains the text: **言語聴覚士とは** (What is a speech and hearing therapist?) and **ことばや聴こえなどコミュニケーションに障害のある方に対** (For those with disabilities in communication such as language or hearing).

- 卒業生が県内で働くことができるように。
- 県内養成校の学生の実習受け入れ等をお願いします。

今後とも士会活動へのご理解と
ご協力をよろしくお願い致します。

ご不明な点やご意見がございましたら、ご連絡頂けますと幸いです。